



第7章

米中「新冷戦」下の中国の朝鮮半島政策

天津外国語大学 教授

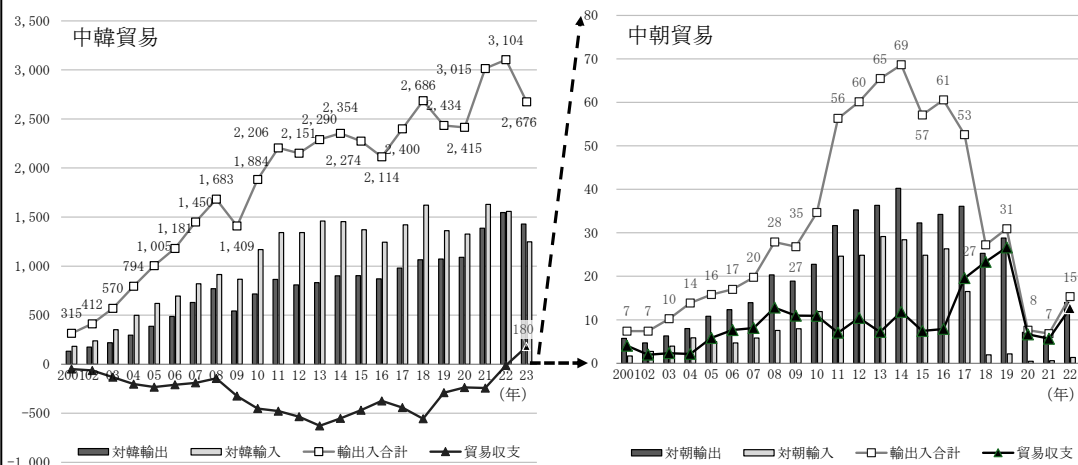
姜 龍範

【ポイント】

- ▶ 北朝鮮の相次ぐ核実験とミサイル発射によって一時は深刻な状況に陥った中朝関係は、両国首脳間の相互訪問などを機に、再び「血で固めた友誼」関係へと修復された。その背景には、米中対立が深まる中、北朝鮮が持つ戦略的価値の重要性を再認識した中国の思惑がある。
- ▶ 尹錫悦（ユン・ソンニョル）大統領は、前政権の「戦略的曖昧」外交を非難し、米韓同盟強化、対日関係改善へと方向転換した。韓国は地上配備型ミサイル迎撃システム配備や台湾海峡問題などの中国の核心的利益に関する問題で米国に同調し、中韓の緊張は高まっている。中国の安保懸念への適切な対応が中韓関係改善の「リトマス試験紙」である。
- ▶ 朝鮮半島情勢が大きな変化を遂げている中、中国の朝鮮半島政策は調整が必要である。北朝鮮に対しては、核問題に関する原則的立場を維持しつつ経済協力を拡大して戦争を回避する、韓国に対しては、相互信頼を高め、経済分野での戦略的協力関係を強化することで、米中間バランス外交へと導く外交政策が必要だ。



中国の対韓、対朝貿易の推移（単位：億ドル）



資料：中韓貿易は韓国貿易協会、中朝貿易は大韓貿易投資振興公社の統計をもとに作成